

鹿児島商工会議所 景況調査

調査期間……平成30年10月～12月
対象企業数…150社

DI (Diffusion Index = 景気動向指数) とは

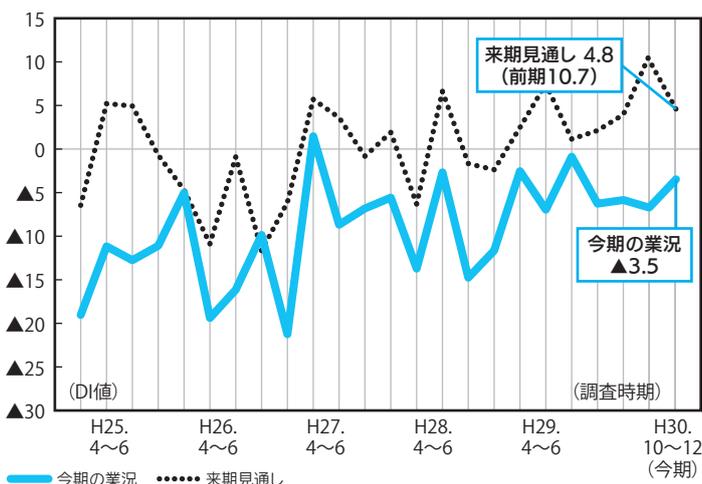
各調査項目について、好転企業割合から、悪化企業割合を差し引いた値を示し、景気の現状把握や将来の見通し予測を行う。

・DIがプラスなら…好転、上昇基調 ・DIがマイナスなら…悪化、下降基調

記号の見方

DI 値	-25P 以下	-25～-10P 未満	-10～10P 未満	10～25P 未満	25P 以上
景況	特に悪化 ⬇	悪化 ↘	横ばい →	好転 ↗	特に好転 ⬆

■ 業況 DI の推移



■ 産業別 DI 値表

		前期	今期	増減 (B) - (A)	来期見通し	
		[H30.7~9] (A)	[H30.10~12] (B)		[H31.1~3]	
業況	全産業平均	▲ 6.7	▲ 3.5	3.2	4.8	→
	製造業	▲ 6.1	10.3	16.4	20.7	↗
	建設業	▲ 3.6	3.7	7.3	▲ 16.0	↘
	卸売業	▲ 26.1	▲ 26.1	0.0	▲ 16.7	↘
	小売業	0.0	▲ 3.2	▲ 3.2	19.4	↗
	サービス業	▲ 2.8	▲ 5.9	▲ 3.1	8.3	→
売上額	全産業平均	6.5	5.3	▲ 1.2	0.7	→
	製造業	9.4	10.3	0.9	34.5	↗
	建設業	6.9	▲ 7.4	▲ 14.3	▲ 37.0	⬇
	卸売業	▲ 16.7	▲ 16.0	0.7	▲ 12.0	↘
	小売業	23.3	15.6	▲ 7.7	22.6	↗
	サービス業	5.3	16.2	10.9	▲ 8.1	→
資金繰り	全産業平均	▲ 9.8	▲ 1.3	8.5	▲ 0.7	→
	製造業	▲ 9.1	6.9	16.0	13.8	↗
	建設業	0.0	▲ 3.7	▲ 3.7	▲ 14.8	↘
	卸売業	▲ 16.7	0.0	16.7	▲ 8.0	→
	小売業	▲ 20.7	▲ 9.4	11.3	3.2	→
	サービス業	▲ 5.3	0.0	5.3	0.0	→
採算	全産業平均	▲ 6.0	▲ 0.7	5.3	3.5	→
	製造業	▲ 3.0	6.9	9.9	13.8	↗
	建設業	▲ 10.7	0.0	10.7	▲ 11.1	↘
	卸売業	▲ 8.7	▲ 16.7	▲ 8.0	▲ 4.0	→
	小売業	▲ 6.7	▲ 6.5	0.2	10.3	↗
	サービス業	▲ 2.8	8.6	11.4	5.9	→

業況はわずかに改善するも引続き二進二退。来期は業種によって明暗が分かれる

【今期(平成30年10~12月期)の景況】
全産業の業況DI値は、▲3.5で、前期比プラス3.2ポイントと、わずかに改善しているが、一進一退の状態が続いている。
産業別に見ると、製造業が好転したが、卸売業は引続き悪化を示している。
【来期(平成31年1~3月期)の見通し】
全産業の来期見通しは、4.8で、前期比マイナス5.9ポイントに低下。
なお、製造業と小売業は回復への期待が伺えるが、建設業と卸売業は厳しい見

通しであり、業種によって明暗が大きく分かれている。
【今期の売上額・資金繰り・採算】
全産業の売上額DI値は、5.3で、前期比マイナス1.2ポイントとわずかに低下。特に建設業で悪化している。
全産業の資金繰りDI値は、▲1.3で、前期比プラス8.5ポイントに上昇。特に、製造業・卸売業・小売業で改善がみられる。
全産業の採算DI値は、全産業では▲0.7で、前期比プラス5.3ポイントに

上昇。特に、製造業・建設業・サービス業で改善がみられる。
【回答企業のコメント】
・売上の確保や、新規取引先の開拓による一社依存体質の改善が課題。(製造)
・従業員の確保難により、請負工事を制限せざるを得ない。自社独自の人材確保には限界がある(建設)
・消費者や取引先への情報発信の重要性が増しており、その取り組みを検討中。(サービス)